

1

be 動詞・一般動詞・進行形

◆指導ページ P.2 ~ 7◆

【指導のねらい】

- ★ be 動詞の基本的な用法を確認し、主語による使い分けをマスターさせる。
- ★ 一般動詞の基本的な用法を確認し、主語による使い分けをマスターさせる。
- ★ 進行形の意味や用法をマスターさせる。

指導のポイントと板書例

1 be動詞の文

(1) 意味…「～である」「～にいる(ある)」という2つの意味に注意させる。(過去形は「～であった」「～にいた(あった)」の意味。)

板書例	現在形	過去形	be 動詞の意味 (現在)「～である, ～にいる(ある)」 (過去)「～であった」 「～にいた(あった)」
	am	→ was	
	are	→ were	
	is	→ was	

He is busy now. 「彼は今いそがしいです。」  
He was busy yesterday.  
「彼は昨日いそがしかったです。」

さらに、主語が単数・複数の場合の使い分けは、テキストP2の表を用いて説明する。このとき以下の点に注意させること。

- ① 主語が複数の場合  
(例) Bob and I am ~とする間違い。  
→ Iの後なのでI am と続けてしまう。
- ② 主語が代名詞のみではない場合  
(例) Are your sister ~とする間違い。  
→ your を you と勘違いしてしまう。

(2)(3) 否定文と疑問文…否定文の作り方、疑問文とその答え方についても説明しておく。これもテキストP2の例文を用いて説明するとよい。

特に疑問文に対する答え方には注意させなければならない。よくある間違いを下に示す。

(例) Were you ~? に対する答えで、Yes, I were. とする間違い。you で尋ねられたのでIで答えるのはよいのだが、ついそのまま were を用いてしまう。

2 There is[are]～. の文

「～がある(いる)」という意味と、be 動詞の使い分けについて説明する。否定文・疑問文の作り方は 1(2)(3)と同じであることを確認させる。

板書例	There is[was] + 単数名詞
	There are[were] + 複数名詞
	※Is[Are] there ~ ? に対する答え方
	Yes, there is[are]. / No, there isn't[aren't].

3 一般動詞の文

(1) 現在の文…英語には be 動詞と一般動詞があることをまず確認しておく。それぞれの動詞を用いた簡単な例文を挙げて比較してみてもよい。どんな一般動詞があるか生徒に尋ねてみるのもよい。また、文の作り方は、主語によって3単現のs[es]がつかない場合とつく場合があることを確認する。

3単現のs[es]の付け方は、テキストP4 3(1)の表を参考にして、間違いそうな単語を例に挙げて説明する。

(2) 過去の文…規則動詞の過去形の作り方は、テキストP4 3(2)の表を利用して説明する。不規則動詞の過去形については頻出のものを確認する。文の作り方は、現在形と過去形の2つの文を例に挙げて説明する。このとき、過去形の文では主語が何であっても動詞の形は変わらないことも付け加えておく

(3)(4) 否定文と疑問文…まず、現在形の文から過去形の文に書きかえ、そこから順に否定文、疑問文へと変化させていく。このとき、動詞は原形になることを確認する。

板書例	(現在形) I play tennis every day.
	(過去形) I play <u>ed</u> tennis yesterday.
	(否定文) I <u>didn't</u> play tennis yesterday.
	(疑問文) <u>Did</u> you play tennis yesterday?
	(答え方) Yes, I did. / No, I didn't.

現在の文では、3単現のs[es]がつかない場合とつく場合を対比して説明するとよい。

板書例	① You like music.	② She likes music.
	↓	↓
	(否) You <u>don't</u> like music.	She <u>doesn't</u> like music.
	(疑) <u>Do</u> you like music?	<u>Does</u> she like music?
	(答) Yes, I do. No, I don't.	Yes, she does. No, she doesn't.

doesn't, Does の後の動詞は原形になることを強調しておく。

4 進行形

(1) 現在進行形と過去進行形…それぞれの例文を挙げ、2つを対比させて同時に説明するとよい。

〈be 動詞 + 動詞のing形〉という文の作り方、「～しているところだ」「～していた」という訳し方の違いには、特に注意させる。また、動詞のing形の作り方も説明するとよい。

板書例	現在進行形…be 動詞(am, are, is) + 動詞のing形
	She <u>is</u> reading a book now. 「彼女は今、本を <u>読んで</u> います。」
	過去進行形…be 動詞(was, were) + 動詞のing形
	She <u>was</u> reading a book last night. 「彼女は昨夜、本を <u>読んで</u> いました。」

(2) 否定文と疑問文…作り方は基本的には be 動詞の文と同じなので、詳しく説明する必要はない。ただし、疑問詞を用いた疑問文とその答え方については例文を挙げて説明することが望ましい。

板書例	She was reading a book last night.
	↓ (下線部を問う文に)
	<u>What</u> was she <u>doing</u> last night? 「彼女は昨夜何を <u>して</u> いましたか。」

※「何をしていたか」と進行形で尋ねられているので「～していた」と進行形で答えることに気づかせる。

演習問題についての留意事項

- 1 (1) 特定の物や人が「～にある(いる)」という場合は There is[are] ~. の文は用いないことに触れておく。1の(2)、2の(2)と(4)を用いて説明するとよい。
- 6 いずれも答えの文がヒントになることを確認し、どんな質問をするとBの答えになるのかを考えさせる。
- 7 (2) that などの指示内容は直前部分にあることが多いことを確認。「私」→「ボブ」の置き換えなどにも注意させる。

2

未来の文・助動詞

【指導のねらい】

★ be going to や will を使った未来の文の用法をマスターさせる。

★ 助動詞の働きと意味、用法を確認し、いろいろな表現ができるようにさせる。

指導のポイントと板書例

1 未来の文 (be going to)

「～するつもりだ」「～することになっている」の意味で未来を表すこと、to に続く動詞は原形になること、主語に合わせて be 動詞が変わることを確認する。否定文・疑問文の作り方は be 動詞の文と同じなので、復習としてここで簡単に説明しておくといよい。

板書例	(現在形) She <u>visits</u> Nagoya.
	(肯定文) She <u>is going to</u> visit Nagoya next month.
	(否定文) She is <u>not</u> going to visit Nagoya next month.
	(疑問文) <u>Is</u> she going to visit Nagoya next month?

※ visit が原形になることを強調する。

2 未来の文 (will)

will は助動詞であること、助動詞の後の動詞は原形になること、be going to と似た意味であることを確認する。否定文・疑問文の作り方も説明しておく。また、I'll や he'll などの短縮形も説明する。このとき注意するのは、will not の短縮形が won't (発音注意) であること。

板書例	(現在形) He is twenty years old.
	(肯定文) He will be twenty years old tomorrow.
	(否定文) He will not be twenty years old tomorrow.
	(疑問文) Will he be twenty years old tomorrow?
	(答え方) Yes, he will. / No, he will not.

※ is が原形の be になることを強調する。

※ 未来を表す語句を挙げさせてみるのもよい。

3 助動詞

(1)(2) 助動詞 can, must を、例文を示して説明する。助動詞の後の動詞は原形になること、否定文、疑問文の作り方は will の場合と同様であること、can の過去形は could であることを確認する。must の否定形 must not (mustn't) は「～してはいけない」という禁止を表すので、Don't を用いた命令文に書きかえられることも確認する。

板書例	He <u>can</u> swim well. 「彼は上手に泳ぐことができる。」
	We <u>must</u> go to school. 「私たちは学校に行かなければならない。」

- (3)① 「～してもいいですか」とたずねるときは May I ~? / Can I ~? のどちらでもよい。
- ② Can you ~? は、Will you ~? と同じように依頼の意味を表し、Please ~. という文に書き換えられる。Could you ~?, Would you ~? はていねいな依頼の意味を表す。
- ③ 「～しませんか」と誘う表現は他に、Let's ~. や How about ~ing? などもあることと、それぞれの答え方についても確認したい。※ Shall we ~? (提案) は OW (教出), NH (東書), NC (三省) は 3 年で学習する。
- ④ May [Can] I help you? はお店などでよく使われる会話表現。

4 have to

- (1) must とほぼ同意であることと、後にくる動詞は原形になること、主語によって has to ~ となることに注意させる。
- (2)(3) 肯定文では must とほぼ同意であるが、否定文では違った意味になることに注意する。否定文、疑問文の作り方を確認する。

板書例	・ must = have [has] to I <u>must</u> do my homework.    I <u>have to</u> do my homework.
	・ must not [mustn't] ≠ don't [doesn't] have to You <u>must not</u> go out. 「出かけてはいけない」    You <u>don't have to</u> go out. 「出かなくてもよい」

演習問題についての留意事項

- 1 天候・寒暖・明暗をいうときは主語に it を用いること、またそれは日本語に訳さないことも指導したい。1 の(3), 3 の(5), 6 の(2)を用いて説明するとよい。
- 7 (1) 電話で「～をお願いします」というときの決まり文句。  
(2) 下線部①の直後の but 以下に着目させる。  
(3) 健の最後の発言の I'll arrive there at ~. (~時にそこに着く) に着目させる。

# 3 不定詞・接続詞

◆指導ページ P.14 ~ 19◆

【指導のねらい】

- ★不定詞の形と3つの基本用法の意味、働きをマスターさせる。
- ★不定詞をその働きによって区別し、使い分けができるようにさせる。
- ★接続詞の働きと意味、用法を確認し、使い分けができるようにさせる。

## 指導のポイントと板書例

### 1 名詞的用法の不定詞

〈to + 動詞の原形〉という形を覚えさせようとして、3つの用法を順に説明する。

名詞的用法の不定詞は、「～すること」の意味で、後出の動名詞とは同意である。書きかえは動名詞の項で説明する。

板書例

名詞的用法 「～すること」  
 I like to play baseball.  
 「私は野球をすることが好きです。」  
 I want to watch TV. 「私はテレビを見たい。」  
To play baseball is fun.  
 「野球をすることはおもしろいです。」

※よく出る名詞的用法の不定詞として、数種類挙げてよい。

want to ~ 「～したい」、like to ~ 「～するのが好きだ」、start to ~ 「～し始める」など。

(実際には、「～することを(…する)」とは訳さないものがあることも指摘。)

### 2 副詞的用法の不定詞

「～するために」の意味で目的や感情の原因を表し、動詞や形容詞を修飾することに注意させる。

板書例

副詞的用法 「～するために」  
 We went to the park to meet him.  
 「私たちは彼に会うためにその公園に行きました。」  
 We are happy to meet him.  
 「私たちは彼に会えてうれしいです。」  
 ※ why でたずねられたときの答えとしても用いる。  
 Why did you go there? → To have lunch.  
 「なぜそこへ行ったの。」「昼食をとるためです。」

### 3 形容詞的用法の不定詞

「～する(ための)、～すべき」の意味。(代)名詞の後に付き、その(代)名詞を修飾することに注意させる。生徒にとっては最もわかりにくい用法であると思われる。

板書例

形容詞的用法 「～する(ための)、～すべき」  
 My father has many things to do today.  
 「父は今日する ことがたくさんあります。」  
 ※ 〈something, anything〉 + (形容詞) + to ~ の形で用いられることも多い。  
 I want something (cold) to drink.  
 「私は飲むための何か(冷たいもの)がほしい。」  
 ↓  
 「私は何か(冷たい)飲み物がほしい。」(このほうが普通)

※ something[anything] + 形容詞で「(何か)～なもの」という意味であることも指導しておきたい。

※ その他の留意事項…不定詞の理解をより深めるために、以下のような例文を挙げてみてよい。

板書例

名詞的用法  
 I want to eat something. 「何か食べたい」  
 want to で「～したい」  
 形容詞的用法  
 I want something to eat. 「何か食べるものがほしい」  
 「食べるための」となり、something を修飾

### 4 接続詞

(1) and, but, or…意味を確認し、語と語、文と文をつなぐことを説明する。

板書例

等位接続詞の働き  
 語と語 Tom and Mike  
 文と文 I know Tom, but I don't know Bill.

(2) when, because, if…特に注意させることは語順であり、when の用法を例に挙げて説明しておく。(下の例のように語順が変わっても意味は同じ。)

板書例

When A, B = B when A  
 「A のとき B である。」  
 When I came home, my mother was watching TV.  
 A B  
 ||  
My mother was watching TV when I came home.  
 B A  
 ※ Because A, B = B because A  
 「A なので B である。」  
 ※ If A, B = B if A  
 「もし A ならば B である。」

(3) that…「～ということ」の意味で2文を結び、省略できることを指導。I think that ~, I know that ~ などよく出る形で覚えさせるとよい(文の構造や時制の一致についてはあまり深入りしなくてもよい)。

### 演習問題についての留意事項

- (5) To study English が主語になっていることを説明。
- (7) Ken and Taku が主語になっていることを説明。
- (1)・(4) so は「それで、だから」という意味の等位接続詞。
- (1)・(2) Why ~? に対する答え方には二通りあることを強調。「理由」を答えるときは Because ~, 「目的」を答えるときは To ~ の形になることを説明。
- (4) まず、主節「あなたは～を知っていますか。」を組み立て、次に that 節を組み立てさせる。
- (7) 形容詞的用法の不定詞。「見る(ための)たくさんの時間」と考える。
- (8) まず主語が何であるかを考えさせる。
- (2) 答えの文の、主語と動詞の形にも着目させる。三単現の s のつけ忘れに十分注意させる。



4

動名詞・いろいろな文

◆指導ページ P.20 ~ 25◆

【指導のねらい】

★動名詞の意味と働き，不定詞との使い分けをマスターさせる。

★いろいろな構造の文を理解し，表現できるようにさせる。

指導のポイントと板書例

1 動名詞

用法…「～すること」の意味で，不定詞の名詞的用法と同じ意味であることに気づかせる。動名詞は文の主語や補語の他，動詞の目的語に用いられるが，ここでは後者を優先して指導する。

板書例

①動名詞のみを目的語にとる動詞  
 finish ~ing 「～し終える」  
 enjoy ~ing 「～して楽しむ」  
 stop ~ing 「～するのをやめる」  
 (中学範囲では上の3つのみ覚えさせればよい。)  
 ※それぞれ頭文字をとって **fes**(フェス)と覚えさせる。

②不定詞のみを目的語にとる動詞  
 want[hope] to ~ 「～したい」

③どちらも目的語にとる動詞  
 like, start など

上の①で挙げた3つのうち，stop については説明を加えなければならない。

板書例

stop ~ing と stop to ~  
 She stopped talking.  
 「彼女は話すのをやめました。」  
 She stopped to talk.  
 「彼女は話すために立ち止まりました。」  
 (上の例文のように，stop to ~は不定詞の副詞的用法であることがわかる。)

2 動詞(look, becauseなど)+形容詞

(1)(2) look, become, get の3つの動詞について，連語として覚えさせる。

板書例

① look + 形容詞 「～(そう)に見える」  
 She looks happy.  
 「彼女は幸せそうに見えます。」  
 ※名詞が続くときは〈look like+ 名詞〉になる。  
 It looks like an egg.  
 「それは卵のように見えます。」

② become[get] + 形容詞 「～になる」  
 It became[got] very cold.  
 「とても寒くなった。」  
 ※ become は後ろに名詞が続くこともある。  
 She became a junior high school student.  
 「彼女は中学生になりました。」

3 目的語が2つある文

日本語の語順に注意させる。SVO の文への書きかえと合わせて指導する。

板書例

show +(人)+(もの) = show +(もの)+ to +(人)  
 「(人)に(もの)を見せる」  
 ※他に give, tell, send など。  
 make +(人)+(もの) = make +(もの)+ for +(人)  
 「(人)に(もの)を作ってあげる」  
 ※他に buy など。

(上のように連語で覚えさせるとよい)

4 命令・Let's ~. の文

(1)(2) 命令文は，主語を省略して動詞の原形で始めることを確認する。特に be 動詞を用いた命令文には注意する。また，否定の命令文は，一般動詞，be 動詞に関わらず Don't で始めることも確認させる。

板書例

You come to my house.  
 ↓ ↓  
 Come to my house.  
 原形  
 Don't come to my house.

-----

You are a good student.  
 ↓ ↓  
 Be a good student.  
 原形  
 Don't be a good student.

※ Don't ~. の文は「～してはいけない」と訳すので，must not を使った文に書きかえられることにも触れておくとうい。

(3) Let's ~. の文…前出の Shall we ~? とほぼ同じ意味であることを再度確認しておく。Let's や Please を用いた文も命令文なので，動詞の原形が続くことを強調したい。

板書例

Let's play soccer.  
 ||  
 Shall we play soccer?  
 (答) Yes, let's. / OK. / No, let's not.  
 / I'm sorry, but I can't.

演習問題についての留意事項

- それぞれの文の動詞に着目して，( )内の動詞を変化させる。
  - 直前の is に着目→be 動詞があるので，~ing の形にする。
  - finish のあとは動名詞のみ。
  - want のあとは不定詞のみ。
- (3) 不定詞に書きかえることができることも説明する。
- (1) 不定詞には書きかえることができないことも説明する。
- (1) 動名詞↔不定詞の書きかえを十分に意識させる。
- (4) 4 文型↔3 文型の書きかえを十分に意識させる。
- (2) 後ろに名詞が続く場合は become を用いる。get は不可。
- (3) start は，不定詞と動名詞どちらも目的語にとることができる。
- (3) 疑問詞が主語になっている疑問文に対する答え方を覚えさせる。